

IVR 看護交流会「IVR 看護研究会 IN いぶすき： 突撃！日本放射線看護学会 DO YOU KNOW IVR？ 今明かされる IVR 看護 24 時」を企画して

Japanese Society of Interventional Radiology Nursing in Ibusuki: Do you know Interventional Radiology?

野口 純子

Junko NOGUCHI

厚生中央病院

Kohsei Chuo General Hospital

日本放射線看護学会より、第4回日本放射線看護学会総会のプログラムとして「IVR 看護」について企画を依頼していただいたのは、2015年の2月頃であった。過去の日本放射線看護学会では、「IVR 看護」が放射線看護の中でどのような位置付けにあるのか、「IVR」とはどのような治療法なのか、ほとんど理解されていないという印象を持っていた。そこで、演題発表やシンポジウムでは、実際にIVRに関わっている人しか興味を持たないであろうと思い、あまり「IVR 看護」の裾野を広げる意味合いはないのではないかと考えた。

また、同じ「放射線」、「看護」というキーワードを持ちながら、日本放射線看護学会がメインで取り組んできた「放射線災害」に対する看護や、放射線そのものを利用し治療を行う「放射線治療」の看護は、「看護」としての本質は同じでありながら、「IVR 看護」は、治療を進める過程において放射線を利用するといった、全く異なる側面も持ち合わせている。そこで、その異なる側面を理解していただくことから始める必要があると思い、「DO YOU KNOW IVR?」というキャッチコピーのもと、IVRという治療の総論、概論の解説、引き続きIVR看護の実際として、多くの方がIVR看護のイメージとして持っている医師へのカテーテル類を出す介助、意識下で治療を受ける患者の看護をしていること、そしてIVR看護への意識を高めるために「IVR 看護研究会」が今まで取り組み、発信してきたことを紹介させていただく内容にしようと考えた。

セッションの冒頭に拳手していただいたところだと、参加者は実際にIVRに関わっている人が三分の一程度、残りの三分の二の方々は、関わっていないようであった。実際には、IVR看護師の一日の流れを面白おかしく再現した動画を作成・供覧したところ、時々笑いが起き、見て下さった方は楽しくIVRを知るきっかけになったのではないかと思われた。セッション終了後すぐに帰路に就かなくてはならず、聞いてくださった皆さんの感想を直接伺う機会を持てなかったことは心残りであった。

今回のセッションをお引き受けするにあたり過去の「IVR 看護研究会」で取り組んできたことを振り返って見たが、患者さんを置き去りにしないIVR看護を軸に、研究会が行ってきたことは、少しずつではあるが進歩してきたことを再確認することができた。今後は、IVR 看護研究会が蓄積してきた実績をもとに、日本放射線看護学会へ微力ながらも貢献できれば幸いであると考えられた。